



苫小牧市議会議員  
小山 征三

通信

『冬』号  
2012. 1. 5

小山せいぞう後援会

苫小牧市ときわ町1丁目19-23

TEL0144(67)8255

新春を迎え、皆様のご多幸をお祈り申し上げます。昨年3月11日に発生した東日本大震災は、甚大な被害をもたらし、「災害に強い街づくり」を改めて認識されられた年となりました。

## 第4回定例会（平成23年12月1日から12月9日）

今回の議案は、各会計補正予算、職員の給与に関する条例等の一部改正、苫小牧保育所設置条例の一部改正、指定管理施設（各コミュニティセンター、高丘霊葬場、文化会館、総合体育館、日吉体育館、緑ヶ丘公園陸上競技場）の指定、そして、家庭ごみの有料化のための苫小牧市廃棄物の処理及び清掃に関する条例の一部改正などがありました。

私は、「家庭ごみの有料化」については、まだまだ市民説明が足りないと感じており、疑問も寄せられています。①なぜ今まで黄色、青色などのゴミ袋に入れなくても良かったのか？②現在のごみ袋で回収、分別を徹底することが先ではないか？③有料化の目的が減量化であれば、減量化が進まない場合どうするのか？などです。今後、議会質問の中で明らかにしていきたいと思えます。



### 「災害廃棄物受け入れ問題」

## 市役所全体で横断的に検討すべき！

私の一般質問では、市長の政治姿勢として3点（①北海道新幹線などの鉄道網整備について ②災害廃棄物の受け入れについて ③町内会活動とみんなで福祉大作戦について）、消防行政として2点（①消防救急無線のデジタル化について ②市町村消防の広域化について）を取り上げました。

まず、何と言っても東日本大震災で発生した災害廃棄物の受け入れ問題です。

昨年6月に苫東が、瓦れき置き場の候補地と報道された時点では、全く打診も無かったとの答弁でありましたが、市長は既に被災地の復興支援のため「焼却できる廃棄物は一定程度受け入れる」と放射能汚染の安全性の確保を条件に示しています。

このこのから5点について質問しました。しかし、何一つ明確な答弁はありませんでした。なぜなら苫小牧市は、「災害廃棄物の受け入れ」を国の環境省から照会があり、単なる清掃事業としてしか捉えていないからです。あまりにも市長に危機意識が足りません。

また、受け入れに際して港の風評は出ないか、企業誘致に影響しないか、災害廃棄物を野積みする場合に雨が降れば河川や下水に入らないか、周囲に学校など無いかなど市役所全体で横断的に検討し、後で想定外とならないようにするため「庁内に被災地支援プロジェクト」などの組織の設置を強く求めました。しかし、市民が放射能汚染に不安を抱える中でも市側はその認識が低く、これほど温度差がある限り安易に受け入れることを許すわけにはいきません。

- ① 災害廃棄物の放射線量等の測定は、受け入れの際に苫小牧市でも行うのか。
- ② 仮置き場として、想定する場所はどこで、どの程度の量を保有し処理するのか、また、想定される期間はどの程度か。
- ③ 仮置き場は、出火危険などがありますが、規制をどのように考えているか。
- ④ 焼却灰の放射性セシウムの検査と焼却灰の処分方法をどうするのか、また、処理場で働く方々の安全対策はどう考えているのか。
- ⑤ 周辺自治体への説明又は協議は必要なのか。

